

まるべに

株主レポート

CONTENTS

- | | | | |
|----|------------------------------|----|--------------------------------|
| 02 | 社長メッセージ
2009年度第2四半期決算について | 11 | 特集 丸紅プロジェクト紹介
[海外IPPプロジェクト] |
| 07 | 連結決算情報 | 14 | CSR情報 |
| 08 | セグメント情報 | 15 | 商品情報 |
| 09 | 丸紅グループの動向 | 16 | 世界の食卓 |
| 10 | 丸紅クリッピング | 18 | IRインフォメーション |



丸紅のCSR活動

おもちゃの寄贈

ニューヨークでホームレス施設や生活保護家庭の子供たちにおもちゃを配るイベント「Toy Joy」に、Marubeni America CorporationとMarubeni Power International, Inc.の社員がおもちゃを寄贈しました。

2
0
0
9
W
I
N
T
E
R

No.
107

2009 年度第2四半期決算について

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

当社は、去る10月30日に、2009年度第2四半期決算を発表いたしました。

この機会に、2009年度第2四半期決算の概要につき、簡単にご報告申し上げます。

1 2009 年度第2四半期決算の概要

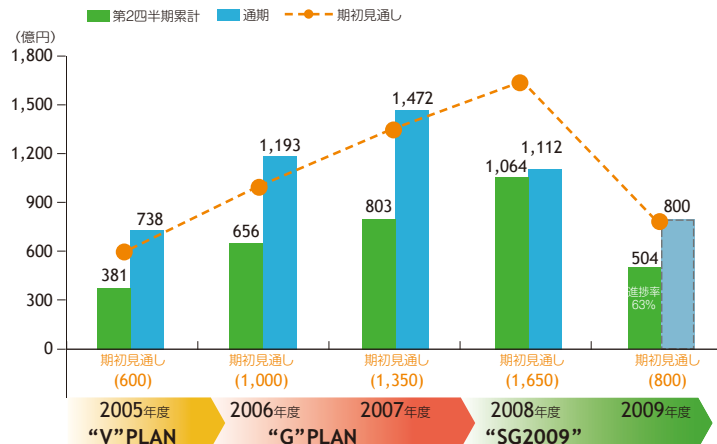
まず、収益面ですが、当第2四半期累計期間の連結純利益は504億円となりました。

期初見込んでおりました今年度の連結純利益見通し800億円に対しては63%の進捗率となり、当初想定していた以上の順調なスタートを切ることができました。(表1)

そもそも今年度の連結純利益見通し800億円は、

「世界経済の本格的回復は2010年度以降であり、2009年度は足元の厳しい経営環境が継続する」という景況感のもと、世界経済ならびに市況などの前提を保守的に見て策定したものです。当第2四半期決算は、期初時点での想定を上回って改善しつつあるトレードフロー・商品市況を着実に取り込んだ結果の好調な決算内容であったといえます。

● 表1 連結純利益



最大の改善要因は、中国の内需拡大を中心とするアジア経済の回復であり、当社においても食料（中国向け穀物取引）、化学品（自動車タイヤ用合成ゴム）、開発建設（中国での住宅販売）など多くの分野でそのメリットを享受しております。

一方、中国の旺盛なベースメタル需要や世界経済の回復期待から原油・銅などの資源価格は第2四半期以降、期初前提を上回る水準で推移しており、資源分野（エネルギー、金属資源）にとっても追い風です。

さらに、当社が強みを有する海外IPP（海外における発電・売電事業）についても、資産ポートフォリオの入れ替えを目的とした、保有発電資産売却による売却益などの実現もあり、堅調に収益を積み上げることができました。

また、今年から生産を開始した豪州での石炭権益など、過去に投資した案件が着実に収益貢献を開始しつつあります。

下期につきましても、引き続きポートフォリオ・マネジメントの徹底による選択と集中を推し進め、さらなる収益力の向上に努めてまいります。



President & CEO Teruo Asada

代表取締役社長 朝田照男

次に、財務面について報告します。

ネット有利子負債は1兆8,880億円と、前年度末比236億円減少しました。一方、連結純資産は、期間利益の積み上げに加え、株式市場の回復や円安の影響により前年度末比1,396億円増加して7,630億円となり、その結果、ネットD/Eレシオは、前年度末より0.6ポイント減少の2.47倍と、すでに今期末の目標レベル（『連結純資産目標：7,300億円程度』、『ネットD/Eレシオ目標：2.50倍程度』）に到達しております。（表2）

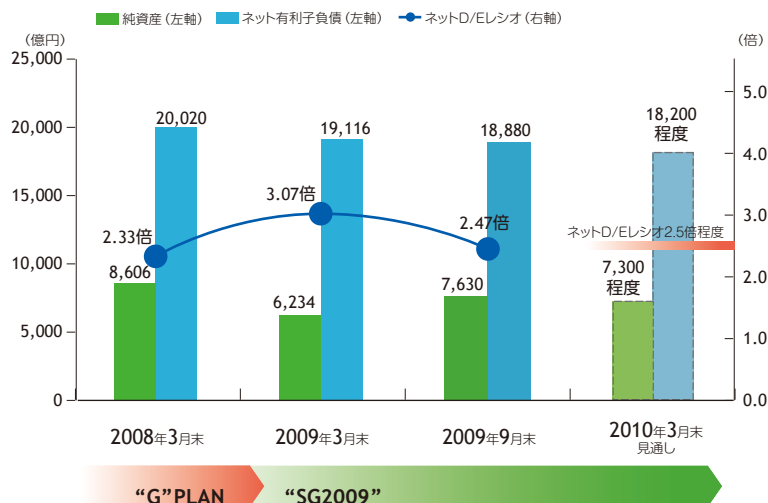
前回の株主レポート（2009年夏号）でも報告させていただきましたが、今年度は不透明・不確実な経営環境がいましばらく続くという認識のもと、昨年9月のリーマンショック以降の世界経済の急激な落ち込み、資源価格ならびに株価の急落、さらには

円高の急速な進行の結果、大きく毀損した財務体質の再生を経営の最重要課題に掲げ、施策を実施しておりますが、その成果が徐々に表れてきております。

またリスクアセット（ネット）については、前年度末比125億円増加の、6,862億円となりました。その結果、連結純資産とリスクアセット（ネット）の差額であるリスク・バッファは768億円のプラスとなり、再び連結純資産がリスクアセット（ネット）を上回る状態に回復しております。（表3）

このように「財務体質の再生」も当初想定していた以上のスピードで、かつ確実に改善しております。

●表2 連結純資産とネットD/Eレシオ



2 将来に向けた営業面での布石

順調に進捗しつつある「財務体質の再生」と並行して、将来の収益貢献に向けた営業面での布石も着実に打っております。

まず、海外 IPP・インフラ分野では新たにアラブ首長国連邦アブダビ首長国（シュワイハット S2 発電水事業）、米国（インヴェナジー・サーマル・ファイナンス社）で海外発電案件を獲得する一方、資産ポートフォリオの入れ替えを目的に海外発電事業の持分の一部を売却し、利益を実現しました。

またマーケットの成長性、および収益の安定性から戦略的注力分野に位置づけている水事業では、ペルー共和国リマ市で浄水場運営案件を獲得しました。当社にとって南米大陸では 2 件目となる水事業案件

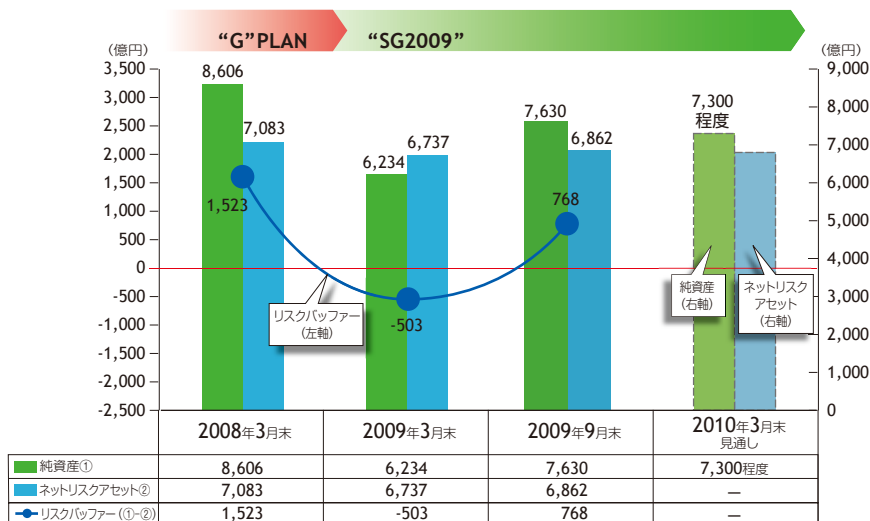
であり、今後 18 年間にわたり、リマ市北部の人口 80 万人を対象にした浄水場の運営を行ってまいります。

当社が強みを有する食糧分野では、世界中で急増を続ける穀物需要を確実に取り込むことで取扱量を増加させ、マーケットにおける存在感を高めるべく布石を打っております。

まず穀物調達サイドでは、世界有数の穀物生産地である南米の地場有力穀物商アマーギ社（ブラジル）、およびモリノ・カニユエラス社（アルゼンチン）との間で穀物の安定供給に関する提携を行いました。

一方、穀物販売サイドでは、中国最大の穀物備蓄企業グループであるシノグレイン傘下の中儲糧油脂有限公司と包括提携を締結しました。いまや中国は世界最大の大豆輸入国になっており、この提携によ

● 表3 連結純資産とネットリスクアセット



り旺盛な中国需要の取り込みが可能となります。

これら調達・供給パイプの確保・拡大を通じて、今年度期初時点での穀物取扱量 1,400 万トンを 2010 年度には世界流通量（貿易量）の 6%にあたる 2,000 万トンまで増加させ、商社 No.1 である穀物トレーディングの地位を確固たるものにしてまいります。（表4）

3 最後に

ご説明してまいりましたように、当社の 2009 年度第 2 四半期決算は収益面、財務面とも順調な結果となりました。

一方、世界経済は底打ちの様相を見せつつあるものの、先行きは依然不透明であると判断しております。回復の方向性こそ幾つかの経済指標において表れていますが、絶対水準としてはまだまだ低いレベ

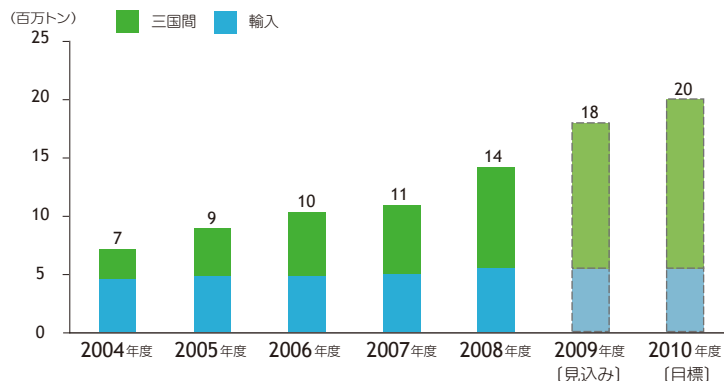
ルに留まっております。加えて急激な為替の変動、世界同時株安といった不測の事態にも備える必要があると判断し、連結純利益の見通しは期初計画の 800 億円を変更いたしませんでした。

この下半期については、気を緩めることなく引き続き足元を固めて今期の最優先経営課題である「財務体質の再生」に向けて全社一丸となって邁進することが肝要と考えております。

この経営課題を完遂することができれば、強固な財務基盤と収益力を基に、来年度よりスタートする新たな経営計画を通じてさらに成長を加速し、一段の飛躍を遂げる姿を皆様に示すことができると確信しております。

株主の皆様におかれましては、これまで同様変わらぬご支援を頂戴いたしたく、よろしくお願い申し上げます。

● 表4 当社穀物取扱量の推移



1. 2010年3月期第2四半期の連結業績（2009年4月1日～2009年9月30日）

（百万円未満四捨五入）

（1）連結経営成績〔累計〕

（％表示は対前年同四半期増減率）

	売上高 〔百万円〕	営業利益 〔百万円〕	税引前四半期純利益 〔百万円〕	当社株主に帰属する 四半期純利益 〔百万円〕	基本的1株当たり当社株主に 帰属する四半期純利益 〔円〕
2010年3月期第2四半期	3,701,240 (△37.1%)	62,880 (△54.9%)	83,801 (△50.8%)	50,428 (△52.6%)	29.04
2009年3月期第2四半期	5,881,762 (15.4%)	139,410 (45.8%)	170,338 (38.2%)	106,439 (32.5%)	61.30

（注）1. 売上高および営業利益については、日本の投資家の便宜を考慮して、日本の会計慣行に従い表示しております。
2. 売上高は、当社および連結子会社が契約当事者または代理人等として行った取引額の合計額となっております。
3. 営業利益は、連結損益計算書における「売上総利益」、「販売費及び一般管理費」および「貸倒引当金繰入額（戻入額）」の合計として算出しております。

（2）連結財政状態

	総資産 〔百万円〕	純資産 〔百万円〕	株主資本比率 〔％〕	1株当たり株主資本 〔円〕
2010年3月期第2四半期	4,626,435	762,957	15.4	410.14
2009年3月期	4,707,309	623,356	12.0	326.60

（参考）株主資本 2010年3月期第2四半期 712,206百万円 2009年3月期 567,118百万円

（注）上記の株主資本は、連結貸借対照表上の当社株主資本であり、株主資本比率および1株当たり株主資本は当社株主資本により算出しております。

2. 配当の状況

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2009年3月期	-	7.00	-	3.00	10.00
2010年3月期	-	3.50	-	-	-
2010年3月期（予想）	-	-	-	3.50	7.00

（注）2010年3月期第2四半期における配当予想の修正の有無 無

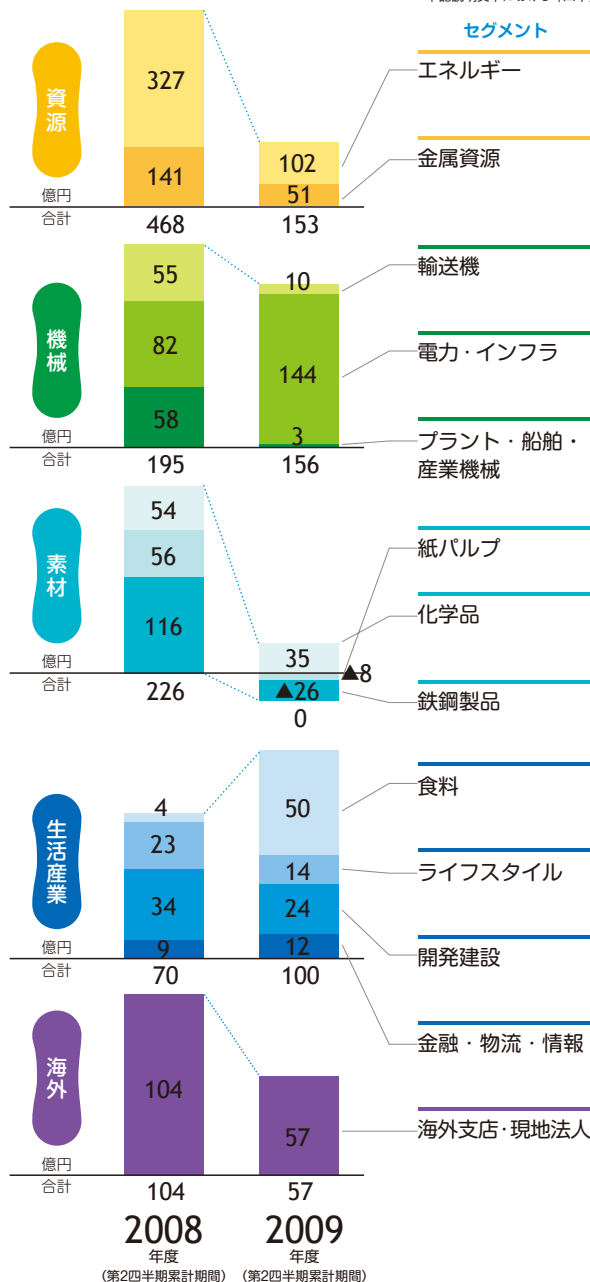
3. 2010年3月期の連結業績予想（2009年4月1日～2010年3月31日）

（％表示は対前期増減率）

	売上高 〔百万円〕	営業利益 〔百万円〕	税引前当期純利益 〔百万円〕	当社株主に帰属する 当期純利益 〔百万円〕	1株当たり当社株主に 帰属する当期純利益 〔円〕
通期	8,000,000 (△23.5%)	125,000 (△46.6%)	135,000 (△32.8%)	80,000 (△28.1%)	46.07

（注）2010年3月期第2四半期における連結業績予想数値の修正の有無 無

- ・連結合計には、このほかに「全社及び消去等」（2009 年度第2四半期累計期間 38 億、2008 年度第2四半期累計期間 1 億）が含まれております。
- ・下記説明文中における「四半期純利益」は「当社株主に帰属する四半期純利益」であります。



主な増減要因

油ガス価下落により売上総利益が減益となったことに加え、有価証券売却益および配当の減少により、四半期純利益は減益。

鉄鋼原料および非鉄軽金属の価格下落による売上総利益の減益に加え、持分法による投資損益の減益により、四半期純利益は減益。

自動車および建設機械関連取引を中心に売上総利益が減益となったことに加え、持分法による投資損益の減益により、四半期純利益は減益。

カリブ垂直統合型電力事業が前年度末に関連会社となった影響などで売上総利益は減益となるも、海外発電事業の売却益、時価評価益および持分法による投資損益の増益を主因として、四半期純利益は増益。

プラントおよび国内向け紙パルプ機械関連取引の減少などにより、売上総利益が減益となったことに加え、持分法による投資損益の減益により、四半期純利益は減益。

市況の下落によるパルプ事業の減益により、売上総利益は減益となり、当四半期累計期間では赤字となった。

商品価格の下落により、無機・農薬化学品、基礎化学品関連取引で売上総利益が減益となったため、株式評価損の改善があったものの、四半期純利益は減益。

持分法による投資損益の悪化により、当四半期累計期間では赤字となった。

中国向け大豆取引増収などによる売上総利益の増益に加え、流通関連会社の取込み損減少や、株式評価損の改善により、四半期純利益は増益。

天然ゴムおよび繊維原料関連取引などの減少による売上総利益の減益により、四半期純利益は減益。

前年同期に都心型高層マンション案件や投資家向け収益不動産開発案件があり、売上総利益が減益となり、四半期純利益も減益。

国内情報関連事業会社の減収により、売上総利益は減益となったものの、前年同期には資金運用取引による損失があり、四半期純利益は増益。

米国会社における売上総利益の減益や、為替レートの影響などにより四半期純利益は減益。

2009.4.1-9.30

- 4.1 日本政府の2008年度京都メカニズムクレジット取得事業におけるクレジット購入契約締結
- 4.13 **中国最大の穀物備蓄企業グループと包括提携**  P10
- 5.1 ブラジルにおける穀物集荷・搾油業者であるアマーギ社と包括提携合意書締結
- 5.11 米国における天然ガス焚き火力発電所ポートフォリオ(合計1,041MW)を保有するインヴェナジー・サーマル・ファイナンス社の49%事業権益取得
- 5.16 チリ共和国銅鉱山プロジェクト向けプロジェクト・ファイナンス契約締結
- 5.20 発展著しい名古屋駅前エリアに新たなランドマーク誕生
「名古屋プライムセントラルプロジェクト」竣工
- 5.22 元当社社員杉浦勉氏が駐ブルキナファソ国特命全権大使に就任
- 5.29 アルゼンチンの大手総合食品企業モリノ・カニューエラス社と包括提携
- 6.16 アラブ首長国連邦シェフハイハット S2 発電造水事業へ参画
- 6.19 株主総会会場でのグリーン電力使用の件
- 7.27 ペルー共和国リマ市で水事業へ参画
- 8.27 **東京本社ビルにおけるグリーン電力使用の件**
- 9.1 チリ共和国銅鉱山プロジェクト権益取得代金に関しアクイジション・ファイナンス契約締結
- 9.3 持続可能性指標 DJSI World の対象銘柄に継続選定
- 9.16 **中国ワイン事業の開業**
～江蘇聖果葡萄酒業有限公司がワイン製造・販売を開始～

2009.8.27 リリース

東京本社ビルにおける
グリーン電力使用の件

2009年9月より、東京本社ビルにおいて使用する電力については、その一部(9月～11月においては577kWh)を環境負荷の少ないグリーン電力でまかっています。当社は、グリーン電力証書発行事業者として、国内電力小売事業における環境対応を加速させるとともに、自社でも今後継続的にグリーン電力証書を購入し、環境への取り組みを推進していきます。



グリーン電力証書

2009.9.16 リリース

中国ワイン事業の開業

当社は中国江蘇省にてワインの製造・販売会社「江蘇聖果葡萄酒業有限公司」をアサヒビール株式会社、富豪酒業有限公司との共同出資で設立し、9月に開業しました。年率10～15%の伸長率で拡大する中国ワイン市場において、当社の原材料調達力を最大限に発揮して安心・

安全で高品質のワイン原料を供給し、ワイン市場の拡大に貢献していきます。



※著作権の関係により、
ネットワーク上への記事
原文、記載画像の掲載は
行いません。

2009年4月12日
日本経済新聞朝刊
1面掲載記事より作成

2009.4.13 リリース

中国最大の穀物備蓄企業グループと 包括提携

当社は、中国最大の穀物備蓄企業 ^{シノグレイン} SINOGRAIN
(中国儲備糧管理総公司) グループの中儲糧油脂 ^{ちゅうちりよう ゆ し}
有限公司 (以下「中儲糧油脂」) と包括提携に関わ
る覚書を締結し、穀物流通の各分野において協力
関係を構築することで合意しました。

当社の狙い

SINOGRAIN グループの一員であり、自前の搾油施設の
拡充を進める中儲糧油脂と提携することで、丸紅の海外に
おける調達能力と、SINOGRAIN グループの中国国内にお
ける穀物流通網とを融合させ、最も競争力のある大豆・菜
種などの原料、ならびに大豆油・パーム油などの製品を供
給することを目指します。

展望

SINOGRAIN グループの国内調達・物流管理網を活用し、
日本・韓国向けに高品質な食品用大豆の直接調達スキーム
を構築していきます。また、両社グループが保有するサイ
ロ運営のノウハウ共有や、人材の相互受け入れを推し進め
るとともに、将来的には中国国内のみならず、南米など原
料供給基地への共同出資も視野に入れて、それぞれ検討し
ていきます。

世界の自由市場で、バランスある成長を目指す

電力・インフラ部門長 山添 茂

長期・安定的収益が見込める魅力的な事業

IPPとは「Independent Power Producer」の略で、民間独立発電事業者のこと。世界的な電力自由化の流れを受け1980年代から各国で設立されるようになり、市場が急速に拡大しました。長期にわたり安定した収益が確保できる魅力的な事業であり、丸紅では海外IPPを戦略事業のひとつと位置づけています。

丸紅がIPP事業に乗り出したのは1990年代のこと。他商社に後れをとってのスタートでした。しかし、米国のIPP専門業者サイスエナジー社を買収し、同社との共同事業を進めるなかで、プラ

ントの運転・保守をはじめとするノウハウを急速に蓄積。今日（2009年6月末時点）では、世界21カ国に総発電容量2万5,870メガワットの資産を保有し、他の日本企業の追随を許さず、スエズ社、インターナショナル・パワー社など世界屈指の欧米系電力事業者と肩を並べるトップクラスの実績を誇っています。また、持分発電容量でも7,507メガワットと、投資家に優良事業者と認知される基準6,000メガワットを突破。他商社を大きく引き離しています。



EPC での独自性が IPP の市場を拓いた

IPP 事業における丸紅の強さの源泉として、独自のビジネスモデルによる EPC（Engineering, Procurement & Construction／発電設備の設計・調達・建設一括請負）事業の蓄積があります。

発電プラント建設の場合、商社は通常メーカーに機器類の調達を一任しますが、丸紅では自社のエンジニアリング機能を強化し、主要機器では欧米の有力メーカーと組む一方、周辺機器の調達、

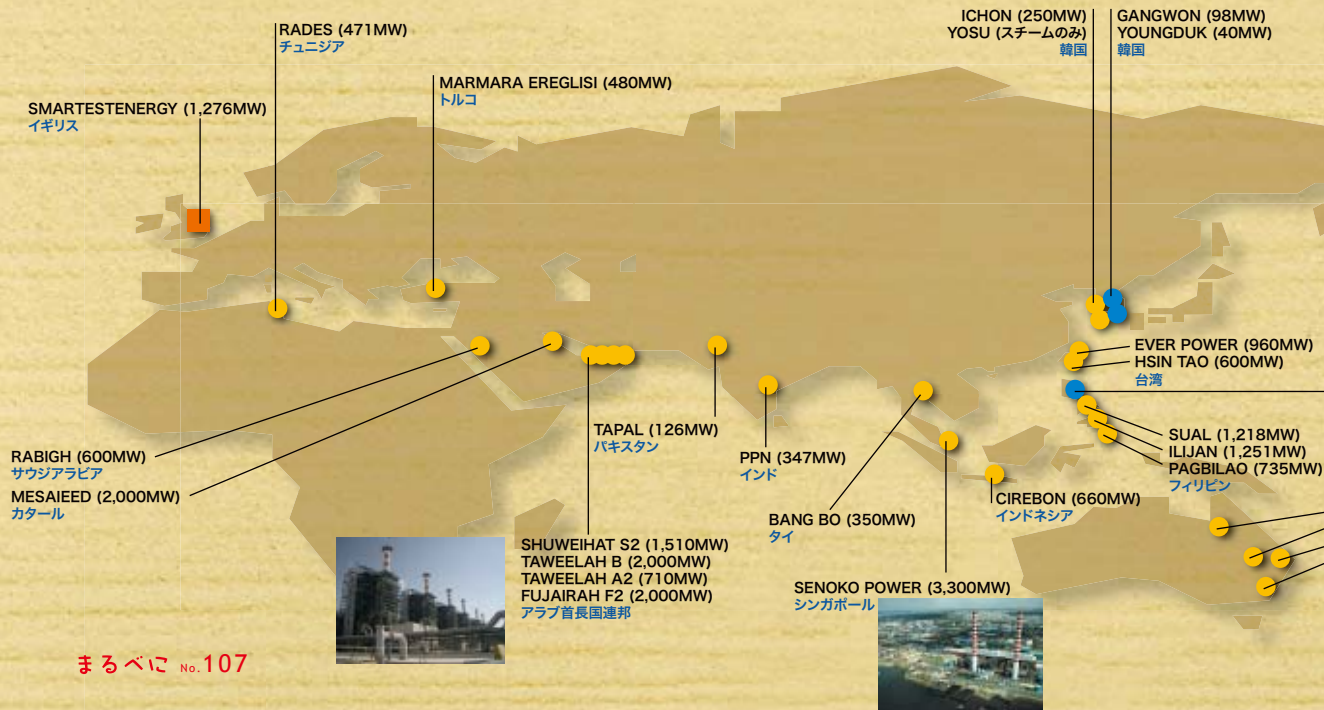
据付・土木建設工事については自前の仕様書を元に複数のメーカー、業者から見積を取り、精査した金額で入札に参加するという画期的なモデルを導入。自社リスクをとって主体的にプロジェクトを進めることで他社と一線を画する競争力を獲得するとともに、発注者との信頼関係の構築が可能となり、EPC コントラクターとして業界トップクラスの地位を築くに至りました。この EPC での実績が、EPC の進化形である IPP への参入・成功につながっていきます。

海外発電資産

総発電容量 25,870 MW

(当社持分 7,507 MW) ※ 2009 年 6 月時点

- コンソリデーション事業（小規模発電者の電力を統合し需要家に供給）
- 垂直統合型事業
- クリーンエネルギー（風力、水力、地熱、バイオマス）などによる発電事業

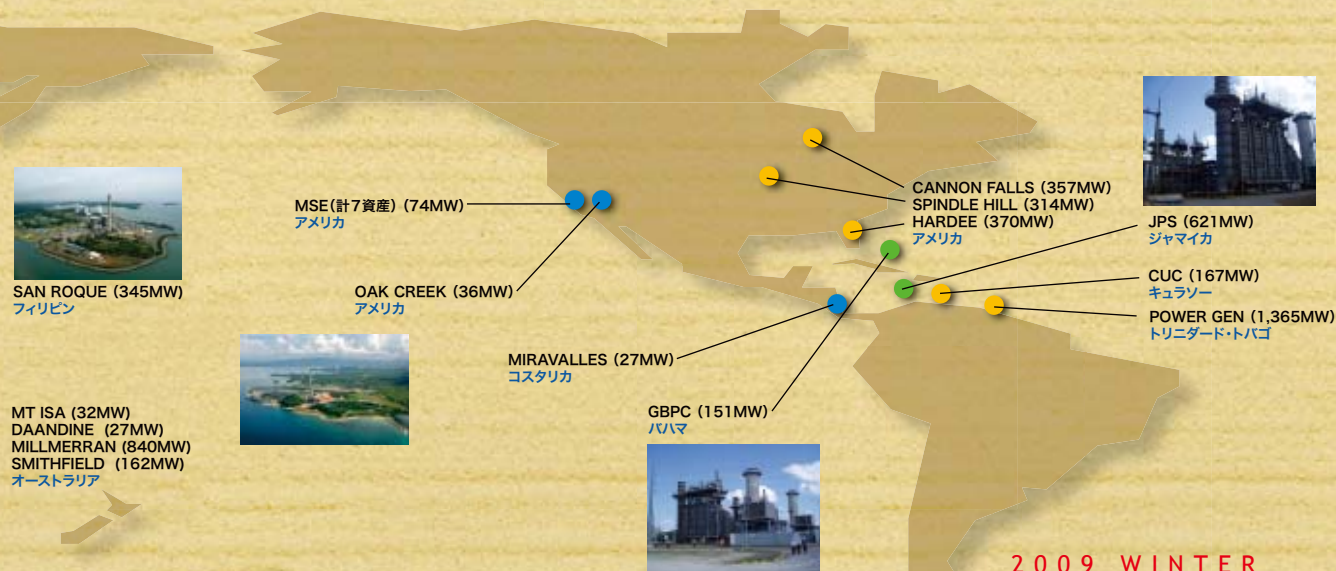


EPC から IPP、そしてその先のステージへ

丸紅の IPP 事業の存在感を一気に高めたのが、2005 年 1 月に事業権を獲得したアラブ首長国連邦（U A E）アブダビ首長国の「タウィーラ B 発電・造水コンプレックス案件」です。総事業費 30 億ドルは当時世界最大級。しかも総出力 2,000 メガワットの発電能力と日量 75 万トンの造水能力を持ち、20 年間の運営を請け負う IWPP（Independent Water and Power Producer／淡水化事業を伴う発電事業者）事業となっています。本件を皮切りに、以後も中東で 2,000 メガワット級の超大型案件などを毎年 1 件という驚異的なペースで獲得。この 6 月にも、U A E・アブダビ首長国における「シュワイハット S 2 発電造水案件」に関し、事業会社株式の 20%を取得しています。

一方、世界規模でポートフォリオ（電力資産の配置）分散を図り、米州での資産増強を進めています。この 5 月には米国にて 3 か所の天然ガス焼き火力発電所を保有するインヴェナジー・サーマル・ファイナンス社の事業権益 49%を取得しました。また米州においては木質バイオマス発電、風力発電にも参入。バランスのとれた発電燃料・地域ミックスの実現により、市場変化に対応できる安定的収益構造の構築を目指しています。

さらに 2007 年には米大手卸発電事業者のミラント社からバハマ、ジャマイカでの発電・送電・配電事業を譲り受けることにより、電力の川上（＝発電）から川下（＝電力小売）までを押さえ、日本企業初の海外垂直統合型発電事業にも乗り出しました。「IPP から総合電力事業者へ」。丸紅は、常に将来を見据え、環境変化に柔軟に対応しつつ、さらなる発展を目指していきます。



福祉活動、災害支援、教育支援などの社会貢献活動を積極的に行っています

今回は、丸紅グループで行っている寄贈、寄付などの社会貢献活動について、海外における事例の一部をご紹介します。

丸紅グループは、すべてのステークホルダーの方々から信頼される企業となるために、CSR 活動を通じて社会とのよりよい共存関係を強化しています。

たとえば、Marubeni America Corporation (MAC) では、2006 年から「MAC 社会貢献プログラム」を実施しています。このプログラムのおもな活動は、教育、環境、福祉活動や災害支援などを目的にした寄付金の拠出、社員個人の寄付に会社が同額の寄付を付ける「マッチングギフト」、そして、有給扱いでのボランティア・プログラムなどです。

2008 年 12 月には、ニューヨークのイベント「Toy Joy」に MAC と Marubeni Power International, Inc. (MPII) の社員が 113 個のおもちゃを寄贈しました。イベント当日は社員 4 名がボランティアとして参加し、ニューヨーク中から集まった何千ものおもちゃの仕分けを手伝い、ホームレス施設や生活保護家庭の子供たちに配布しました。さらに MAC と MPII は寄贈したおもちゃと同額の 1,000 ドル以上を寄付しました。

また、ミャンマー・サイクロン、中国・四川地震、

メキシコ湾岸・ハリケーンアイクなどの災害支援のための拠出も行いました。



「Toy Joy」のイベントにて
集まったおもちゃ

ルーマニアの丸紅ブカレスト出張所では、社員が読み終わった日本の新聞をブカレスト大学、ヒペリオン大学、イオンクレアンガ高校へ届け、学生の皆さんに日本語教材の一部としてご活用いただいています。ルーマニアの大学では、現代日本に関するゼミや日本語学科の講義が盛んに行われていますが、この活動への謝意から、ヒペリオン大学日本語学科の 2008 年の「Year End Party」に、丸紅ブカレスト出張所長が日本大使（代理出席）とともに招待され、丸紅の CSR 活動に関してのスピーチを行う機会が設けられました。



新聞を活用した
日本語授業への訪問

「上原歩」プロデュースの卒業式、成人式用着物の販売開始

京都丸紅（株）

商品企画課

Tel: 075-342-3314

<http://www.kyobeni.co.jp/>



展開アイテム・参考価格：

二尺袖 絵羽着物 ¥63,000/ 二尺袖 小紋着物
¥52,500/ 袴 ¥45,150/ 半襟 ¥6,825/ コサージュ
¥8,925/ 絵羽振袖 ¥155,400/ 帯 ¥63,000
(すべて税込価格)

人気モデル「上原歩」さんプロデュースによる京都丸紅のハウスブランド「Lako Kula」（ハワイ語で「宝石」の意味）では、2009年6月より卒業式、成人式用着物の販売を開始しました。二尺袖着物は、インパクトのある百合の花をデザインした「大百合」と、華やかな桜と縞模様が印象的な「縞桜」の2ラインナップ。振袖は、「市松牡丹」と、百合に更紗模様が印象的な「百合」を展開。いずれのアイテムもトータルコーディネートで「輝く思い出」を提案していきます。

パタゴニアの人気シューズが防水性を強化して新発売！

（株）丸紅フットウェア

ブランドマーケティング事業部

Tel: 0120-172-528

<http://marubeni-footwear.com/>



リリース ゴアテックス
¥23,100（税込）

丸紅フットウェアは、パタゴニアフットウェアシリーズの2009年秋冬モデルとして、トレイルランニングシューズの人気商品である「リリース」にゴアテックス素材を採用して防水性を強化した「リリース ゴアテックス」を発売しました。

同社は、米国のアウトドア用品・スポーツウェアブランドであるパタゴニアのフットウェアに関し、2007年より日本での輸入総代理店を務めています。

朝採れた新鮮なたまごをその日のうちに売り場へ！

丸紅エッグ（株）

東日本営業部

Tel: 03-3549-1882

<http://www.marubeniegg.jp/>



相鉄ローゼンで販売されている神奈川県産「朝どりたまご」の販売ラック

丸紅エッグでは、農場で朝採れたたまごを、その日のうちにスーパーで販売する取り組みに着手しています。2008年9月から東武ストアで埼玉県産「生みたてたまご」を、2009年7月からは相鉄ローゼンで神奈川県産「朝どりたまご」を販売しています。たまごが店頭に並ぶのは通常は採卵の翌日ですが、両スーパーと丸紅エッグのコラボレーションにより商品化が実現しました。

丸紅グループ社員が世界各地の料理とそのお国柄などを紹介するコーナー。

今回は、1997年から約4年間、香港に駐在した渡辺さんと、そのご家族にお話を聞きました。

チーズ・ロブスター

新鮮なロブスターと濃厚なチーズソースのハーモニー。

レシピ紹介

材料

3~4人前

ロブスター 2尾 (1尾約 800g)
片栗粉…………… 適量
チーズ (トッピング用) …… 適量
香港麺…………… 適量
※中国食材のスーパーなどで手に入ります。

【ソース】

バター…………… 30 g
小麦粉…………… 100 ml
大豆油 (サラダ油でも) 100 ml
にんにく…………… 5~6片
鶏がらスープ…………… 150cc
A { チーズ…多め (とろみがつくくらい)
塩・砂糖…………… 各小さじ2
こしょう…………… 適量
牛乳…………… 200 ml

1



予めボイルしたロブスターの身の部分をぶつ切りにし片栗粉をまぶして油通し。表面が黄金色になったら取り出す。頭と尾は1対だけ別にしてとっておく。

2



小麦粉とバターをボウルに入れ、90℃に熱した大豆油で溶かしておく。

Point 分量はロブスターの大きさにより調整してください。

3



みじん切りにしたにんにくを炒め、香りが立ったらAを加え、火を止めて2の小麦粉とバター、さらに牛乳を入れ、かき混ぜながらひと煮。

「美味しい料理」と「元気」の街

今回の料理は、香港では宴会用としてポピュラーな「チーズ・ロブスター」です。日本に2店を出店する香港料理の専門店「鴻星海鮮酒家」さんに特注で作っていただきました。ここは香港に十数店を持つ高級海鮮料理のお店で、渡辺さんも「駐在時代には何度かお世話になりました」とのこと。ボリューム感一杯のロブスターにコクのあるチーズソースがたっぷりかかった一品は、まさに贅沢のひとつ言です。

高級レストランが競い合う香港ですが、共働きが当たり前で外食の機会が多いせいか、安くて美味しいお店も沢山あります。「特に海鮮が豊富で、



眠らない街香港の夜をご家族で散策

蒸す、炒めるといった調理法が多く、にんにくをたっぷり使うんですよ。また、お勧めはなんといっても飲茶です。世界一美味しいですよ」と渡辺さん。

4



出来上がった3のチーズソースに、1のロブスターの身を入れ、和える。

5



頭と尾を両端に配し、ゆがいた香港麺を間にしき、4のチーズを散らしオーブンで溶かして出来上がり。

丸紅 合成樹脂部
ポリオレフィン貿易課長

渡辺照正・由美子・奈那美ご家族
(シニア・マネージャー丘さん、
料理長 袁さんと)

1997年10月から2002年1月
まで、香港現地法人である丸紅
香港華南会社に駐在。
プラスチック原料の販売および
同製品の対日輸出業務に関わる。



地場スーパーには多種の冷凍飲茶が揃っていて、一般家庭の食卓に並ぶことも多いようです。

香港の人たちについて由美子さんは「みんな元気がよく、ポンポンと早口で話すので、最初は圧倒されましたが、実際にはとても気さくで温かい人たちでした」と言います。奈那美さんも、当時住んでいたマンションの管理人さんが大変子ども好きで、いつも優しくしてくれたことをよく覚えているそうです。

中国返還後、香港の国際的な役割は変わりつつありますが、そこに住む人々の元気で優しさで「これからもアジアの重要拠点であり続けると信じています」と渡辺さん。楽しい思い出がたくさん詰まった香港——いつか家族で「また住みたい街」だそうです。

取材協力店

鴻星海鮮酒家（お台場店）

東京都港区台場 1-6-1
Decks 東京ビーチ 701 台場小香港内
Tel: 03-3599-6731

【交通】

ゆりかもめ

「お台場海浜公園」駅徒歩2分

臨海副都心線

「東京テレポート」駅徒歩5分

【営業】

11:00 ~ 23:00 (ラストオーダー 22:00)



<http://www.hungsing.co.jp/>

会社概要 2009年9月30日現在

創 業	1858年5月
設 立	1949年12月1日
資本金（単体）	262,685,964,870円
従業員の状況	従業員数： 3,981名
	平均年齢： 41.5歳
	平均勤続年数：16.9年

・上記人員には、国内出向者690名、海外店勤務者・海外出向者・海外研修生675名が含まれております。また、上記3,981名のほかに、海外店現地社員が371名、海外現地法人の現地社員が1,332名おります。

当社ネットワーク 2009年10月1日現在

国 内

本社	東京都千代田区大手町一丁目4番2号
支社・支店・出張所	北海道支社、東北支社、名古屋支社、大阪支社、九州支社等11カ所

海 外

支店・出張所	モスクワ支店、イスタンブール支店、ヨハネスブルグ支店、シンガポール支店、クアラルンプール支店等53カ所
現地法人	丸紅米国会社、丸紅欧州会社、丸紅アセアン会社、丸紅中国会社等18の現地法人 およびこれらの支店・出張所等43カ所

海外ネットワーク (69カ国114カ所／2009年10月1日現在)



役 員 2009年9月30日現在

取締役および監査役

取締役会長	勝俣宣夫
取締役社長*	朝田照男
取締役副社長執行役員*	桑原道夫、関山 護、船井 勝
取締役常務執行役員*	

太田道彦、國分文也、梅澤敏徳、崎島隆文、砂押 久、川合紳二

取締役	小倉利之、石川重明
監査役	安江英行、佐々木正典
監査役	喜田 理、工藤博司

執行役員

専務執行役員	望月孝一
常務執行役員	清水教博、八田賢一、園部成政、山添 茂、秋吉 満
執行役員	鹿間千尋、榎 正博、野村 豊、齊藤秀久、岡田大介、津田愼悟、生田章一、中村諭吉、山本 勉、鳥居敬三、柴山章司、田中一紹、世一秀直、吉田郁夫、松村之彦、紺戸隆介、生野 裕、岩佐 薫、岩下直也

- ・*印の各氏は、代表取締役であり、かつ執行役員を兼務しております。
- ・取締役小倉利之および取締役石川重明は、社外取締役であります。
- ・監査役喜田理および監査役工藤博司は、社外監査役であります。
- ・当社は業務運営の一層の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は35名で構成されております。

株式の状況

2009年9月30日現在

発行済株式の総数

普通株式 1,737,940,900 株

株主数

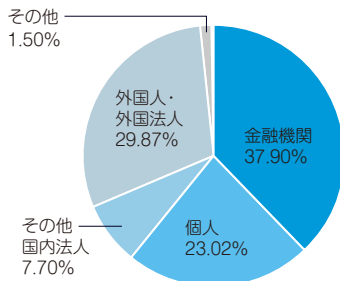
普通株式 144,762 名

大株主（普通株式）

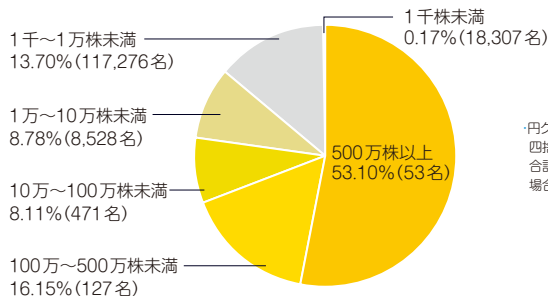
株主名	当社への出資状況	
	持株数（千株）	議決権比率（%）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	126,051	7.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	79,287	4.57
株式会社損害保険ジャパン	56,110	3.24
東京海上日動火災保険株式会社	49,859	2.87
明治安田生命保険相互会社	43,118	2.49
株式会社みずほコーポレート銀行	30,000	1.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	28,645	1.65
ザチエス マンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	26,903	1.55
日本生命保険相互会社	26,000	1.50
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	22,711	1.31

・持株数は千株未満を切り捨て、議決権比率は小数点3位以下を切り捨てております。

所有者別分布状況（普通株式）



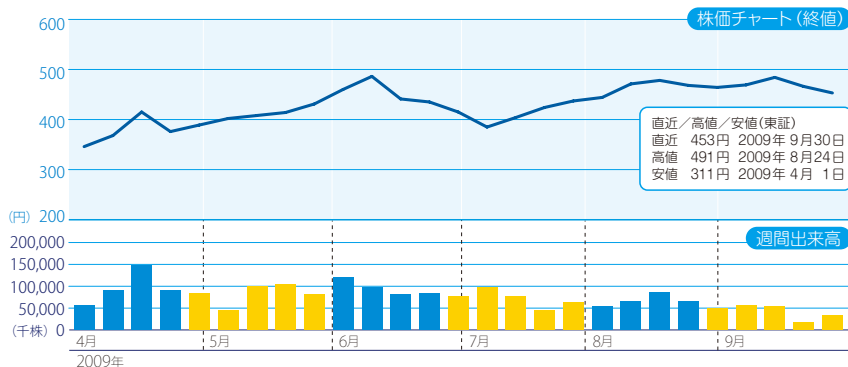
所有株数別分布状況（普通株式）



・円グラフの数値は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

株価／出来高の推移

2009年4月1日～2009年9月30日



IR ニュースメールを配信しております

決算情報はもちろん、最新のビジネスの動きを伝えるニュースリリースなど、当社の情報をタイムリーにお届けします。パソコンのメールアドレスをお持ちの方ならどなたでも無料でご登録いただけます。ぜひご利用ください。

詳しくは当社ホームページをご覧ください。



<http://www.marubeni.co.jp/ir/mailnews.html>



「学校に通うことができて、本当に嬉しいです。
頑張って勉強して、
しっかり技術を身に付けたいです。」



アジアの未来に期待する、 丸紅の奨学基金です。

丸紅は奨学基金制度によってアジア諸国の学生を支援しています。

Marubeni

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日
株主名簿管理人及び
特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
〒103-8670
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社
本店 証券代行部
〒103-8670
東京都中央区八重洲一丁目2番1号

単元株式数 1,000株
上場取引所 東京・名古屋・大阪
公告方法 電子公告

(なお、当社の電子公告は、当社インターネットホームページの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)
<http://www.marubeni.co.jp/ir/houteikoukoku.html>

丸紅株式会社 証券コード：8002 インターネットホームページアドレス <http://www.marubeni.co.jp>

■ 株式事務に関するご案内

◆未払配当金のお支払い、支払明細の発行 みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

◆住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、配当金受取方法のご指定、相続に伴うお手続き等

【証券会社にて口座をお持ちの株主様】口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

【証券会社にて口座をお持ちでない株主様（特別口座に登録されている株主様）】みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

●お問い合わせ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-288-324

株主レポート まるべに No.107（年2回発行） 2009年12月3日発行 発行人／松村之彦
発行／丸紅株式会社 財務部 〒100-8088 東京都千代田区大手町1-4-2 TEL 03-3282-2477

